

研究計画書

ゼミ名	寺尾ゼミⅡ	チーム名	ウイニングイレブン
タイトル	なぜコンビニは「便利」を超えたのか		
テーマ群	a) 理論・情報 c) 公共経済		
メンバー	石井莉奈 川上眞矢 川上直樹 豊藤大樹 濱田悠平 前田波那 前田愛美 三枝良輔 向山幹人 吉井翔輝 村岡健司		
研究計画内容	<p>【研究目的】</p> <p>コンビニエンスストアは、店舗数、販売額ともに、現在も増加し続けており、人々の生活に欠かせない存在となっている。さらに近年では「公共料金の収納代行サービス」なども提供している。これらの事実は、コンビニエンスストアが、その提供するサービスを多様化した結果、社会インフラとしての機能を備えるようになったことを示している。そして、そのような観点からコンビニエンスストアの問題を考察した調査報告や経営学的研究は存在する。しかしながら、コンビニエンスストアの社会インフラとしての機能を「公共性」として捉え、コンビニエンスストアが「公共性」を有するに至った理由を明らかにする経済学的研究は存在しない。つまり、コンビニエンスストアの経済学的な特性については、人々にとってのその身近さや、小売業全体に占めるそのウェイトにもかかわらず、明らかにされていないのである。以上のことから、私たちは、「コンビニエンスストアが社会インフラとしての機能を有するに至った理由」を明らかにする研究を行う。</p> <p>【研究方法】</p> <p>「利活用可能な独自のネットワークが存在する状況においては、私的財を生産する生産者は、そのネットワーク規模の拡大に伴い、公共性を有する財・サービスを生産可能となる」という仮説を検証するために、理論経済学のフレームワークを用いた分析を行う。</p> <p>【期待される成果】</p> <p>コンビニエンスストアのネットワーク性を理論的に分析する私たちの研究によって、ネットワーク性と公共性との間の一般的な関係についても明らかにされることが期待される。また、コンビニエンスストアの公共性の原因が明らかにされれば、その社会的な活用方法に関わる政策立案に資することが期待される。</p>		